



主催 一般社団法人日本育療学会

日本育療学会 第28回学術集会

学校等における病気のある児童生徒への支援 「ここ」から「みらい」へ



2024年8月10日（土）



会場：国立特別支援教育総合研究所（集合・対面開催）

基調講演

「小中学校等における心理的不適応のある児童生徒への支援—不登校を中心に—」
常葉大学 特任教授・国立特別支援教育総合研究所 名誉所員 笹森洋樹

シンポジウム

小中高等学校における病気のある児童生徒への支援：「ここ」から「みらい」へ

演題募集締切 7月10日（水）17：00まで

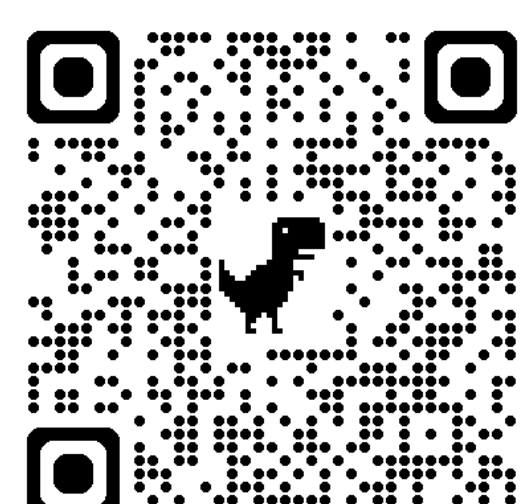
参加登録締切 8月 2日（金）17：00まで

参加費 会員5,000円 非会員6,000円 学生・当事者・家族2,000円

学術集会長 土屋忠之（国立特別支援教育総合研究所）

詳細・参加申し込み・演題登録等はこちら → <https://ikuryo2024.wixsite.com/2024>

（一社）日本育療学会第28回学術集会事務局
事務局長 大崎博史（国立特別支援教育総合研究所）
お問い合わせ メールアドレス：ikuryo2024@gmail.com



後援（予定）

文部科学省 厚生労働省 こども家庭庁
神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会 横須賀市教育委員会
一般社団法人日本小児看護学会 公益社団法人日本小児保健協会
全国病弱虚弱教育研究連盟 全国特別支援学校病弱教育校長会
全国病弱虚弱教育学校PTA連合会
認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク
国立特別支援教育総合研究所（順不同）

第28回学術集会プログラム

8月10日(土)

【 午前 】 司会 嶋野 隆文 (国立特別支援教育総合研究所 主任研究員)

9:50-10:00 開会式

10:00-10:50 学術集会長講演

テーマ:学校における病気のある児童生徒への支援:今「ここ」から

土屋 忠之 (国立特別支援教育総合研究所)

からだやところに病気のある児童生徒の中は、絶えず病状や心理的な状況が大きく変化したり、病状が悪化し続けたり、残念ながら亡くなってしまいう児童生徒もいる。30年近く教員や研究者として児童生徒への支援等に取り組んだ経験から教科を計画的に学習したり、将来に向けて取り組んだりする難しさを感じてきた。

「今」を大切に「ここ」から共に歩む支援について、自身の最近の研究や活動等と関連させながら考えたい。

11:00-12:00 口頭発表①

【 午後 】 司会 大崎 博史 (国立特別支援教育総合研究所 総括研究員)

12:50-13:50 記念講演

テーマ:小中学校等における心理的不適応のある児童生徒への支援—不登校を中心に—

笹森 洋樹 (常葉大学 特任教授・国立特別支援教育総合研究所 名誉所員)

精神疾患や心身症等、こころの病気のある児童生徒は、小中学校等在籍時に発症し、不登校を経験することが多い。そのため特別支援学校(病弱)へ転籍する児童生徒が増加傾向にある。そこで不登校をはじめ心理的不適応のある児童生徒への支援に関する考え方と国の動向について、文部科学省の生徒指導や不登校に関する調査研究協力者会議委員なども歴任し、学校不適応について詳しい笹森洋樹氏からお話を伺う。

14:00-15:00 口頭発表②

15:10-17:00 シンポジウム

テーマ:小中高等学校における病気のある児童生徒への支援:「ここ」から「みらい」へ

○コーディネーター・企画趣旨

土屋 忠之 (国立特別支援教育総合研究所 総括研究員)

研究所が行ってきた病気のある児童生徒の支援に関する近年の研究成果を説明し、その後、小中高等学校における児童生徒への支援について保護者の立場、特別支援学校(病弱)の特別支援教育コーディネーターの立場、私立の高等学校の立場からお話を伺い、これらについて意見交換することを目的として企画した。

○シンポジスト

・学校における病気のある児童生徒への支援の状況

—保護者の立場から—

福島 慎吾 (認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク専務理事)

・小中高等学校における病気のある児童生徒への支援の実際

—特別支援学校(病弱)の特別支援教育コーディネーターの立場から—

中里 早苗 (埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校 教諭)

・私立高等学校による入院等、病気療養中の生徒への支援の実際

—高等学校の立場から—

吉田 和市 (学校法人 三浦学苑 三浦学苑高等学校 校長)

○指定討論者

深草 瑞世 (千葉県教育庁特別支援教育課 主幹兼教育支援室長

・元文部科学省特別支援教育調査官)